

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道17号 <small>むいかまち</small> 六日町バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：新潟県南魚沼市竹俣 至：新潟県南魚沼市庄之又	延長	5.1km		
事業概要					
国道17号六日町バイパスは、「市街地部の交通混雑緩和と死傷事故の削減」、「道路ネットワーク整備による地域活性化」、「救急医療体制の支援」などを目的とした延長5.1kmのバイパス事業である。					
H6年度事業化		H5年度都市計画決定		H10年度用地着手	
H12年度工事着手					
全体事業費	約302億円	事業進捗率	60%	供用済延長	1.7km
計画交通量	9,400～12,800台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益	
	(事業全体) 0.9 (残事業) 1.6	(残事業)/(事業全体) 111/364億円 〔事業費：92/333億円 維持管理費：19/31億円〕		(残事業)/(事業全体) 182/312 億円 〔走行時間短縮便益：150/258億円 走行経費減少便益：28/47億円 交通事故減少便益：3.2/6.7億円〕	
基準年：平成28年					
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量		B/C= 0.8～0.9 (交通量±10%)		(残事業) 交通量	
事業費		B/C= 0.8～0.9 (事業費±10%)		事業費	
事業期間		B/C= 0.8～0.9 (事業期間±20%)		事業期間	
				B/C= 1.5～1.9 (交通量±10%)	
				B/C= 1.5～1.8 (事業費±10%)	
				B/C= 1.6～1.7 (事業期間±20%)	
事業の効果等					
定性的な効果					
①雪国観光圏形成による地域活性化					
・広域的な観光ネットワークの一部を形成し、雪国観光圏整備計画を支援することが期待される。					
②地域間交流活性化による新たな生活圏の形成					
・八箇峠道路と連携し、十日町・南魚沼生活圏の一体的な圏域形成を支援することが期待される。					
③救急医療施設へのアクセス向上					
・第三次医療施設へのアクセス向上が期待される。					
・搬送ルートが多様化、それに伴う搬送の確実性・定時性の向上に寄与することが期待される。					
④緊急時のリダンダンシーの確保					
・信頼性の高い道路ネットワークの構築が期待される。					
⑤冬期除雪障害の解消					
・冬期間における円滑な交通の確保が期待されるとともに、安全性・信頼性向上が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見					
地域から頂いた主な意見等：					
南魚沼市などで構成される「一般国道17号六日町バイパス促進対策協議会」から整備促進要望を頂いている。					
知事の意見：					
地域の安全・安心確保等のため、事業を継続する必要がある。					
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
・平成16年11月に六日町、大和町が南魚沼市として合併し、平成17年10月には塩沢町が編入合併					
・平成27年度までに小栗山～余川間（延長1.7km）が暫定2車線供用					
・地域医療の高度化に向けて第三次医療施設「魚沼基幹病院」が平成27年6月に開院					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
事業の進捗状況：用地進捗率71%、事業進捗率60%（平成28年度末予定）					
残事業の内容：南魚沼市竹俣～南魚沼市小栗山、南魚沼市余川～南魚沼市庄之又の暫定2車線整備					

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

余川地区および小栗山地区の改良工事、竹俣地区の用地買収を進め、早期全線暫定2車線供用に向けて、引き続き事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

建設発生土の有効活用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。
現道取付部の立体交差を平面交差に見直すことを検討しコスト縮減を図る。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

国道17号は、東京都から新潟市に至る重要な幹線道路であり、広域的な通過交通や沿線地域間の連携を支える重要な役割を担っている。

六日町バイパスは、市街地部の交通混雑緩和と死傷事故の削減、道路ネットワーク整備による地域活性化、救急医療体制の支援など、期待される効果は大きいため事業を継続する。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。